

## 日本活火山総覧（第3版）の刊行

### Issue of National Catalogue of the Active Volcanoes in Japan (Third Edition)

# 山里 平[1]; 千葉 達朗[2]; 塩谷 みき[2]; 藤田 浩司[2]; 松島 功[1]; 棚田 理絵[1]; 白土 正明[3]

# Hitoshi Yamasato[1]; Tatsuro Chiba[2]; Miki Shioya[2]; Koji Fujita[2]; Isao Matsushima[1]; Rie Tanada[1]; Shomei Shirato[3]

[1] 気象庁火山課; [2] アジア航測; [3] 静岡地方気象台

[1] Volcanological Division, JMA; [2] Asia Air Survey; [3] Shizuoka Local Meteorological Observatory

気象庁は、これまで日本の活火山のカタログとして、日本活火山総覧を2度にわたり刊行してきた。第1版は1983年に刊行され、その後、1991年に第2版が刊行されている。2003年1月、火山噴火予知連絡会は、それまでの活火山の定義「過去およそ2000年以内に噴火した火山及び現在活発な噴気活動のある火山」を「概ね過去1万年以内に噴火した火山及び現在活発な噴気活動のある火山」に改め、108の活火山を選定するとともに、火山学的に評価された火山活動度によって活火山を分類した（ランク分け）。新たな活火山が追加されたことや前版発行からすでに10年を経過していることなどから、気象庁は、日本活火山総覧（第3版）を発行することにした。第3版では、活火山選定の検討に際して行われた調査結果を基に、新たな知見等を付け加えた。第3版の特徴は、次のとおりである。

活火山定義が過去1万年噴火火山にまで拡張されたことを考慮して、各火山について、過去1万年の火山活動の概略を記述する項を設けた。また、火山噴火予知連絡会による活動度による分類結果も掲載した。従来の歴史噴火を中心とした記述は、「記録に残る火山活動」と別項目にした。できる限り最新の研究成果を取り入れるべく、火山噴火予知連絡会の委員をはじめとする火山学者の意見を広範に聞き、従来の版の記述の誤りをできるだけ修正することに務めた。

各火山の項に、火山の写真を付け、図表等もわかりやすいように、カラー印刷を大幅に採用した。地形図もカラー印刷とし、地形の細部が理解できる赤色立体地図（千葉・鈴木，2004）を採用した。また、付録にCD-ROMを付け、印刷される内容に加え、観測点の緯度経度等の各種データを収録した。火山防災マップの一部も掲載している。

また、火山学の進歩に応じて適切に改訂できるよう、気象庁ホームページとリンクし、新たにわかった事実や新たに発生した事象については、それらは気象庁の各火山監視・情報センターのWEBで参照できるようにする予定である。

総覧の内容についてご意見を賜った研究者の方々にお礼を申し上げます。